



鈴木 みどり 議員
誠進会

問 子どもの貧困対策の確立を

答 切れ目のない支援を行う



問 市教育委員会では、子どもの貧困状況について情報を得ているのか。また問題のある場合の対処は。

答 **教育部長** 貧困の定義は難しいが、経済的な部分は把握している。希望者には個別学習、また必要な関係機関へつなぎ支援している。

問 困窮における子育て世帯の包括支援はどのようにしていくのか。

答 **民生部長** 貧困・困

窮にかかわらず、アンケートや聞き取り、保健師などによる相談支援を行っている。

問 子どもの貧困支援は、子育てから学校教育までの一元化が必要と考えるが、教育の立場から、どのように考えるか。

答 **教育部長** 教育・保育・子育てに係る機関、その他、行政機関などで利用者支援事業 **!** が円滑かつ効果的に行われるよう努める。

! **利用者支援事業**
子どもまたはその保護者の身近な場所、教育・保育・保健その他の子育て支援の情報提供および必要に応じ相談・助言などを行うとともに、関係機関と連携調整を行う事業。

問 生活困窮者自立支援の充実を
答 先進事例に
ならい研究する

問 生活自立支援センターの中で、就労・家計相談などの支援も行っているが、任意事業との違いは。

答 **民生部長** 就労支援はハローワークへの同行、家計相談は状況改善の相談など、いずれも初期段階の支援。

問 若者就労サポートとして、何か取り組んでいるか。



▶ハローワーク津島

答 **商工観光課長** 市では行っていないが、ハローワーク津島の主催で海部津島合同就職フェアを開催し好評を得た。来年度以降も開催予定。

問 子どもへの学習支援は考えているのか。また、今後どうしていくのか。

答 **市長** 先進事例になり研究していく。子どもの貧困は大きなテーマ。継続して行える施策・支援が重要である。